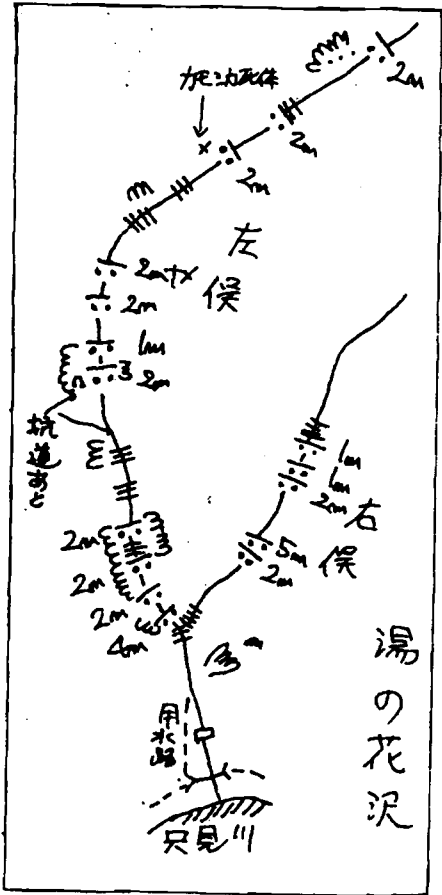


足の骨だけが水に流されただけで、ほぼ一体分がすっかり残されていた。ナダレ



の跡もないし、どういう理由で死んだのだろうか。

このあとはすっかり平凡。まもなく水も濁れ、ブッシュがかぶさってくる。右手の尾根をこえて右俣を下降する予定であったが、左岸斜面は猛烈なヤブである。二俣まで下降した方が楽だと判断。引き返すことにする。 (記)

[タイム] 出合(7:35)→二俣(7:50)→遊行終了(9:05)

湯の花沢右俣

1990年8月26日
L

湯の花沢左俣の遊行終了後二俣まで戻り、10:10右俣の遊行開始。すぐ小滝が出てくる。5m滝は左岸を直登。下部は細かいがホールドが豊富。上部はフリクションをきかせて突破する。水流のすぐ右側が登りや

すい。

幸先は上々であったこの右俣は、このあとすぐに平凡となる。たんたんと遊るが、どうにも平凡。ブッシュがかぶさってきたところで遊行終了とする。

(記)

[タイム] 出合(10:10)→遊行終了(10:45)

柴倉沢(下流部)

1990年8月26日
L

湯倉温泉から只見川ぞいの踏跡をたどり、8:00柴倉沢出合。歩き始めるとすぐに2m滝、3m滝。そして7mと4mの2段滝となる。ここは右の側壁に取り付き、滝の落口にトラバースする。右からナメ状の支沢を合わせる。合流点のあた